文部省科学研究費補助金の配分をめぐって

文部省科学研究費補助金，いわゆる科研費の第2段審査委員をつとめた経験から，その配分についての感想を述べてみたい．

我々の提出する科研費の研究計画調書は，我々の場合3人の天文学の第1段審査委員に送られ，各課題ごとに5段階法による評点がつけられる．

一方，文部省学術審議会では，内示された科研費の内訳を決める．54年度の科研費の総額は265億円であるが，決められた種目ごとの内訳は次のようになっている．

種目	金額(億円)		課題数		一件あたりの額(万円)	採択率
総合研究(A)	23.6	=	700	×	337.1	48.3%
〃 (B)	1.7	=	85	×	200.0	32.4
一般研究(A)	35.3	=	440	×	802.3	38.0
〃 (B)	49.4	=	1735	×	284.7	33.9
〃 (C)	35.2	=	2540	×	138.6	25.6
〃 (D)	7.0	=	1530	×	45.8	20.0
奨励研究(A)	20.0	=	3250	×	61.5	44.6
試験研究	23.6	=	915	×	257.9	29.5

このなかで，奨励研究の伸びが目立つ．

これが人文系，物理系など4つの系と広領域にと，文学，理学など8つの専門に分配されるのだが，その配分の式は，前年度の配分金額比率に6，今年度申請研究経費比率に2，申請課数比率に2のウェイトがかけられている．その系や専門のなかでの天文への割当ても，同じウェイトで決められる．そして，第2段審査委員による審査会がひらかれるが，天文の場合，総合（B），一般（A）と（B），広領域と指定したものは物理系小委員会に，その他のものは理学小委員会にかけられる．しかし，物理系小委員会には天文の審査員は数学と交代で2年に1回しか出席できない．

第2段審査は，第1段審査の点数を尊重して行なわれるが，同点のものをどれをとるかが主な仕事である．また，各課題ごとの金額もきめる．採択された課題のうち一定の割合は2年度目の金額も内定する．2年度目のつくものの課題数と金額は次表の通りである．

	新規採択課題の	今年度配分予定総額の
総合研究（A）	2/3 以上	1/2 以上
一般研究（A）	全部	1/3
〃 （B）	〃	〃
〃 （C）	1/3	〃
試験研究	〃	1/2

このことはあまり知られていない．2年度以降にも，1年度と同じ位の金額を申請すれば，もらえる可能性は多い．

また，天文に対する割当は，申請金額の総額と申請件数で決まるので，なるべく多くの申請が出ることがのぞましい．また，かなり申請額に近い金が認められるのが原則なので，上限の金額のない試験研究では，とくに申請金額に注意してほしい．また，申請書の研究者番号などを誤記しないように願いたい．

一般的に云って，第1段審査の方は自分の専門の課題によい点をつける傾向にある．そこで，同じ課題にある人は5点をつけ，他の人が1点をつけるといった例さえあるが，もっと広い視野から評点がつけられないものだろうか．（古在由秀）

1979年5月の太陽黒点（g, f）（東京天文台）

1	8,	85	6	9,	74	11	14,	118	16	—,	—	21	14,	53	26	18,	74
2	—,	—	7	14,	78	12	12,	97	17	—,	—	22	26,	90	27	13,	54
3	8,	97	8	—,	—	13	14,	92	18	14,	101	23	12,	73	28	12,	58
4	10,	85	9	18,	109	14	—,	—	19	12,	68	24	11,	69	29	12,	49
5	11,	81	10	—,	—	15	19,	162	20	13,	52	25	14,	93	30	18,	54
															31	12,	56

（相対数月平均値：155.6）

昭和54年7月20日 印刷発行
定価 300 円

発行人 〒181 東京都三鷹市東京天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷所 〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町251 啓文堂松本印刷
発行所 〒181 東京都三鷹市東京天文台内 社団法人 日本天文学会
電話 三鷹 31局 (0422-31) 1359 振替口座 東京 6-13592